

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームとも
(ユニット名)	うらら
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市
記入者名 (管理者)	西原瑞容・段昌江
記入日	平成 20年 2月 6日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	外部からの訪問者へも理解して頂けるよう、玄関、ユニット内に掲示している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時を利用し読み上げ、意識付けを図っている。	○ 具体的に内容を考え、取り組むことが出来ていないため、今後はミーティングの時などに振り返り考えていけるようにしたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族や、地域の方々が来られ、目に付きやすいように、玄関やユニット内への掲示を行っている。	○ 家族会の中では、目標や反省をユニット内で掲げ報告をしているが、地域については、具体的な策がないため今後検討していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	夏祭りや、その他の行事を企画し、地域の方々に気軽に立ち寄っていただける機会を作るよう努めている。	○ 今後も継続して、このような活動が行えるよう年間を通じて、計画を掲げていきたいと考えている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ入っており、地域の花見や掃除など参加させて頂いている。ホームでの夏祭り、敬老会、クリスマス会などの行事を企画し、町内会の方々へ参加していただいたりポスターを作製し、呼びかけを行ったりしている。	小規模であるため、スタッフの人員が限られており行事の企画、実施については大変苦勞もあるが、法人の協力もあり事故などなく実施することができている。今後も続けて実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	夏祭りなどを通じ行事は行っているが、高齢者への取り組みは状況としてなされていない。	○	運営推進会議などで提案し、協力を頂きながら、検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議を通じてスタッフへの働きかけを行い、自己評価についても一人一人のスタッフへ配布し、個々にユニットとしてどのように取り組んでいるか、取り組むべきか検討している。	○	まだまだスタッフ全員が、理解している状況ではないため、今後も引き続きミーティングなどを通じて、現場の中で具体的に取り組んでいきたいと考えている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で話し合った内容については、報告書を取りまとめ、スタッフへも伝わるよう回覧を作成している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉担当者とは、運営推進会議以外でも相談させて頂き、連携をとれていると感じている。	○	管理者が、連携をとり、スタッフへの働きかけもある。すべてのスタッフが取り組んでいるとはいえないため話し合い向上に取り組んでいけたらと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在必要と考えられる方がおらず、スタッフ間での学ぶ機会がおろそかになっていると思う。	○	包括支援センターや市役所への協力を頂き今後、勉強会などを企画していきたいと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で身体拘束廃止委員会を発足させ、虐待について考える機会を設けている。	○	言葉による拘束について、まだまだ徹底なされていない部分があるため、今後委員会を通じスタッフへの働きかけを行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長、管理者が利用開始前に、ご家族と十分な時間をかけて話しをさせていただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先へ苦情についての、相談窓口の案内を掲示している。また、意見箱の設置もある。利用者様の声については、現場にて伝えて頂きその都度対応するようにしているが、本年度は、苦情を受けていない。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の報告を行い、必要時は電話での連絡も取り対応している。また、毎月の便りの作成と担当ごとに2ヶ月に一回、担当者便りの作成を行いご家族へ様子をお便りで知らせている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の中で機会を設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームでの会議を月1回開催しており、その中で意見を聞き反映させている。	今回、自己評価を行うにあたり、意見を表に表せないスタッフも中にはいるとの事だった。個別に聞き取りも行っているが、スタッフの入れ替わりもあり難しい現状もあり悩む部分でもある。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ユニット内のミーティングの中で話し合い、必要に応じてホームの会議の中で提案するような体制がある。また緊急の場合はお互いのユニットから応援をもらったり、法人からの協力もある。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人での異動、ユニット間の異動については、ホーム長、管理者と利用者への配慮を行いながら協議なされている。	男性スタッフがいないため、要望は出しているが、現状としては難しい状況である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会などの主催する研修や法人での施設内研修へ参加し、質の向上に努めている。また、会議の中での緊急マニュアル訓練(勉強会)や、各ユニットごとの事例についてのケアのあり方についての検証をミーティングの中で設けるよう努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老施協や、グループホーム協議会主催の研修や法人の施設内研修への参加などを通じ、交流がある。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場を離れての交流(食事会)なども企画し行っている。またユニット間のミーティングでは、日々の業務上の悩みを解消するように努め、話し合える雰囲気であると感じている。	○ 項目16同様、意見を表に表せないスタッフも中にはいるとの事だった為、個々に面談を行ったり、働きかけを行っていききたいと思う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの意見を大切にし、現場の声を尊重し、ある程度の事についてはユニット間に任せてもらっており、スタッフは、利用者様のことに対して意欲的に働きかけられていると思う。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始にあたって訪問、面会を行い利用者本人の気持ちと、ご家族の状況を把握するように努めている。利用を決めるまでに足を運んで頂くよう声掛けし、他のグループホームさんの情報についても尋ねて頂き、比較できるよう担当のケアマネへお願いしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	項目23と同じ	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者を窓口とし、居宅担当ケアマネや、医療相談員と話し合い見極めるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	関わりを持ちながら馴染めるようスタッフ間で相談したものを、ご家族へ提案し、なるべく今までの生活に近づけたものをと配慮するよう自宅を訪問し、家具を運んだりと努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフが、嫁や娘となったり、生活共有者としての関わりが実現できるよう努めている。料理の味付けや縫い物など教えて頂いたりする場面がみられる。家族への不満を漏らす利用者も中にはおり、喜怒哀楽を表して頂いていると思う。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	受診や行事については、協力を頂き、ご家族は利用者本人にとっては欠かせない存在である事を常に会話の中で働きかけるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族へ協力を頂き、外出、外泊される利用者がいる。自宅にいる頃から通いながら美容室へ出かけたり、自宅近所へお茶を飲みにも帰られる方もいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を頂きながら、支援に努めている。		状態の悪化に伴い継続する事が困難な利用者もいる。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	歩行困難な利用者の支えとなって下さったり、スタッフへの呼びかけを行ったり、支え合う場面も見られる。共有スペースの配置についてもそのような関わり合いが行えるよう配慮し、行っている。		認知症の悪化に伴いトラブルも、発生している現状もある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	法人の特養へ入所された方については、法人の運動会や、夏祭り等の機会を利用して利用者同士の交流がある。入院された方については、相談員を通じての連携や受診の際の面会などを行い関係は続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の言葉や思いを基に検討している		希望を伝えることの困難な利用者もいるためご家族へ相談しながら、本人本位で努めて検討してはいるが、日々迷い考えている状況にあり、検証中である。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当を中心にやりとりの記録を行うだけでなく、スタッフ間でミーティングを行い、把握する様努めている。		より充実した生活を送って頂けるよう工夫していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	サービス実行表も基に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のミーティングの中で話し合うよう努めている。サービス担当者会議を開き、話し合い、反映させるよう努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの期間に応じて話し合いを行っているものの、状況の変化に応じての作成については不十分であると感じている。	○	月ごとに担当者にてまとめを行っているがそれらが反映されていないため、今後は活用し、状態に応じての見直しを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を行いながら変化については、朝の申し送りや口頭での引き継ぎ、日誌の参照などの習慣をつけ情報の共有を行い、ミーティングなどを利用して見直すよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望については、その都度話し合い、可能な限り実現に向けて取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所との支援体制は出来ており、行事の度にボランティアの協力を頂いている。運営推進会議に警察の方を招き、話をして頂いたこともある。	○	パトロールなどの要請を行っていたが、実現がなされていないため、今後働きかけを行っていききたい。また提供できる活動などについても、協議していききたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	管理者、ケアマネ、家族を交えての話し合いがなされている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状として必要と考えられる利用者がいないため取り組みが浅い。		項目10同様包括支援センターや、市役所などへの協力を頂き学ぶ機会を作り協議していききたいと思う。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科(前田病院) 歯科(西の原歯科)が協力医療機関として連携をとっているが、利用者本人が長く通われ、希望される際は、そちらの先生と話し合い協力を頂けるよう要請はしている。		実際に急変時の受け入れを要請した事がなく、その時がきた時にどのように対応して下さるかについては、今後ご家族を交え、主治医と話し合う必要があると感じている。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個々にかかりつけの医療機関に相談し、協力を頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ユニット内に、看護兼介護スタッフがおり、相談できる体制がある。また週2回健康管理に看護師もおり、気軽に相談できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療相談員と、家族と協議しながら、治療に支障がなければ、なるべくホームでの生活を優先していただけるよう連携を保っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	例えば食しの低下や状態の変化に応じて、看護スタッフと相談しながら、ドクターとご家族と話し合い、どのようにケアしていくか方向を確認している。内容についてはミーティングや申し送りを利用して共有に努めている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に備えては、看護師の協力を頂きながら想定できる範囲で勉強会を会議の中で行ったり、日頃のミーティングの中で話題として挙がるが、実際にホームでの見取りの経験はない。	○	項目43の中でも触れたが、今後主治医との話し合いも必要と考えている
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケアマネや、医療相談員、家族を通じ、情報交換を行い対応に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の状況にあわせて、ゆっくりと対応する様心がけてはいるが、慌てたりするとつい早口や、大きな声となることがある。記録については、目にふれにくいよう事務所で管理し、カーテンをしたりと配慮している。	○ 話し合いの場を設け、振り返るようにしているが、引き続きスタッフ間で注意し合える環境を作っていきたいと考えている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	興味あるものは何か、今本人にとってどのような時間であるのかを声掛けする前に考え、本人の気持ちを優先しながら支援に努めるようスタッフ間で声掛けに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞いたり、話し合い、察しながらスタッフ間で連携をとるようにしている。	○ 日によって、場面によってはスタッフ間の思いこみでの生活もまだまだみられると感じている。引き続き、その都度スタッフ間で振り返りながら、検証していきたいと思う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力を頂き、美容員はなるべく通い慣れた店へ足を運んで頂くようにしている。ビューティーヘルパーや訪問の床屋の利用がある。希望に応じて衣服の買い物などへも出かけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	興味のある方へ協力を頂けるような環境作りに努めている。食事など提案を頂き、工夫している。活動の一連の流れの中で、出来る範囲の所や興味のある場面での参加、協力を頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒、たばこを好まれる方は現在の所いないが、買い物など希望時になるべく行いその際に好みのものを購入されたりしている。ホーム内でも自由に提供できるように常備している。自分で購入出来るよう、自動販売機の設置も玄関先に行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パターンについては把握し、必要に応じての援助を行っている。その方の生活状況に合わせた下着、尿とり、排泄用具の使用を検討している。	○	声掛けや、スタッフ間での会話の中で配慮が不足していることがあるため、ミーティングや現場の中で注意しあえる様話し合っていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望を聞きながら、またその方の習慣に合わせての入浴を行っていただけるよう、利用開始時は窺うようにしている。またスタッフは、いつでも入浴して頂けるような対応に努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	時間や、場所にとらわれず、休んでいただけるよう配慮している。実際部屋で休まず、リビング内で休まれるためベットの配置をリビングに設けている利用者がいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事活動や、好きな歌、踊り、テレビ観覧、園芸、新聞の提供、行事を企画し支援に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	気持ちに配慮しながら、家族と相談し行っている。現状としては、利用者一人で管理が出来る方がいないため財布(小使い程度)を預かり、必要な時にお渡しし、使用して頂く。レジでお金を渡し、支払いのみをして頂く方がいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に入出入り出来るようにしており、天気の良い日は、近くの畑へ散歩へ出かけたりされる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族へ相談し、協力を頂き、日程を調整しながら実現できるよう努めている。今年度は、足湯へ出かけたり、木市の見学などを実現できた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援体制は整っているつもりだが、自ら希望される方はいない。ご家族からのお手紙や電話はあり、その都度つないでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族を通じて、さまざまな方の訪問があり、ゆっくりとすごして頂けるようお茶をお出ししたり、お部屋へ誘導したり配慮に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で身体拘束廃止委員会を発足し、取り組んでいる。研修会への参加も行っている。日々振り返る事が出来るようトイレへ張り紙を行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。はさみ防止のために自動の電源を切ることはある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	建物周りや散歩へ出かける範囲についても、危険箇所はないか確認し、台風時期などは、市役所や地域の方々の協力を頂き安全に配慮することが出来ている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人一人の状況に応じて判断しているが、現状としては、なくしてしまうなどの理由から、部屋に刃物を管理している利用者はいない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと報告、事故報告を作成し、取り組み、その都度話し合いを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人のマニュアルがあり、全スタッフへ配布している。職員会議などを利用し、実施してはいるが、定期的とはいえない。	○	年間での計画を立て実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練については、定期的に自主防災訓練を実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や、プラン作成時を利用して説明を行うよう努めている。		話し合い、説明はしているつもりだが、家族によっては受け入れて頂けているか不安もあり、アプローチが難しいと感じる時もある。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々とコミュニケーションを図る中での反応は、その都度スタッフ間で共有するよう勤めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明を確認し、必要な時は病院や、協力医療機関の薬剤師へ連絡を取り確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、便秘の方については、薬に頼らずなるべく食物繊維や水分、ヨーグルトを活用し予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の状態に合わせてポリドントなどの使用をしている。歯科の協力を頂き、月に一度診て頂いている利用者もいる。口腔ケアについては、利用者のその時の気持ちに配慮し実施するように、スタッフ間で連携を取るようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要量ご自分で盛り付けていただくこともあるが、食事が不足してしまう方については、好みにバナナやパンなどを提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人で感染症対策委員会を立ち上げており出席している。またマニュアルがありそれらを基に看護師を中心に実践している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については、その日に使う食材を届けて頂き、日付けを入れるようにし、新鮮なうちに消費するよう努めている。ふきんや食器などは定期的にハイターでの消毒を行っている。もしもに備え検食の保存(2週間分)も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には、季節の野菜や、花を上利用者が興味を持てるよう工夫している。危険箇所の確認も、常に行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて飾りつけを行ったり、プライバシーの配慮に努め、のれんなど使用している。	○	まだまだ工夫できる箇所があると思っはいるが、実行出来ていない所もあるため、実現に向けて取り組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりと座ってくつろぐスペースを、常に検討しながら配置の工夫を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へ協力頂きながら実施しているが、オープン時にタンスやベットの配置を行っていたためか、持ち込が少ないのが現状としてある。	○	まだまだアピールが不足している所もあると思うため、スタッフ間で今後、ご家族にどのようにアプローチしていけばよいか、検討していく(来年度の目標に掲げている)。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温管理をしながら、冷暖房の調整を行い利用者の状況に応じて衣服の調整などについてもこまめに声掛けをするよう努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、保護をしたり、動きを把握し配置を検討するよう努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声掛けなどの手法について、援助方法を検証するよう努めている。	○	スタッフサイドが慌ててしまい、対応がおろそかになってしまう場面も見られるため、研修や話し合いを通じて理解を深めていきたいと考えている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先には、利用者が集い会話が保たれている。(花壇の花や野菜に興味を持ち、集ってくる方々が多い。)		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

<p><b>【特に力を入れている点・アピールしたい点】</b>  (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)</p>
<p>・夏祭りなどの企画を通じて、地域の方々との協力体制がある。(特に町内会や消防)  ・スタッフの中に、主婦が多くすべてのことに対して主婦の立場からの意見(親に対する思いなど)大いに反映されている部分があると感じている。経済的な所も含め、検討するため経営的にも良いと感じる。  ・他の事業所に比べ、ご家族の協力体制がある方ではないかと感じている。</p>